

アートプロジェクト『適塾の集い』に出演しませんか

森村泰昌（美術家 大阪大学特任教授）

1 “なにをしたいのか”

大阪大学の学生の皆さんにご参加いただきたいプロジェクトがあります。以下説明させていただきます。

わたくし森村泰昌は、現在改修工事中の「大阪大学中之島センター」に、新作作品を設置させていただくことになりました。どんな内容の作品にしようかな、どういったテーマがふさわしいのだろうかといろいろ考えました。そして、識者のご意見にも耳を傾けながらテーマはやっぱり「緒方洪庵と適塾」だという結論になりました。

緒方洪庵は幕末期の医学、蘭学の研究者です。また天然痘のワクチンである種痘を広めたり、感染症のコレラと戦ったりと、医療現場にたずさわる医師でもありました。大阪に「適塾」と呼ばれる塾を開設、おおくの塾生を育てた教育者としても知られています。

「適塾」からは、福沢諭吉や大村益次郎、あるいは「衛生」という概念を日本に広めた長与専斎ら、幕末から明治にかけて多様なジャンルで活躍することになる多くの門下生が輩出されています。

「適塾」の建物は、昭和 17 年に遺族より大阪帝国大学に寄贈され、大学がその志を引き継ぐことになりました。そんな「適塾」は現・大阪大学の出発点であると位置づけられています。

「適塾」は焼失せず奇跡的に今も大阪北浜にあります。重要文化財に指定され、現在は大阪大学適塾記念センターとして活動が続けられています。

また、作品を設置することになる大阪大学中之島センターが位置する場所は、かつて大阪帝国大学があり、のちには阪大病院となったメモリアルな跡地です。現・大阪大学と深いつながりのある場所性を持っており、同センターは芸術、文化、科学、技術の 4 本柱を軸に今後の大学の重要拠点として位置づけられています。

大阪大学の精神的基盤としての「緒方洪庵と適塾」を21世紀の現在において再考・再構築する作品を制作し、新しく生まれ変わる大阪大学の施設に設置することは、じゅうぶんに意味があるように思われます。

2 “どんな作品を作りたいのか”

私は、なにものかに扮した自分自身を撮影するという、セルフポートレイトの写真作品をながらく制作してきた美術家です。しかし今回制作するのは、大学の施設に設置されるパブリックアート（＝個人的な表現をこえた公共性にある表現）です。ですから今回は、作品のなかに私ひとりだけが登場するのではなく、大阪大学の学生の皆さんにも一緒に入りこんでいただくという、集団肖像画に挑戦してみたいと思います。

どんなふうにするかという、まず不肖私が「緒方洪庵」に扮します。そして学生の皆さんには「塾生」に扮していただきます。洪庵と塾生たちが集まって語らう場面を、重要文化財に指定されている「適塾」現地にてロケ撮影を行います。

作品タイトルは『適塾の集い』です。かつてあった「適塾」という勉学の場に、大阪大学に関わる現代の我々が集い未来を語りあう。そういうイメージを想定しています。

3 “大阪大学の学生であれば、どなたでも応募可能です”

このアートプロジェクトに興味を持っていただけたらとても嬉しいです。くわしくは下記概要をご覧ください。

たとえば福沢諭吉なりたいと思われたかた、あるいは、よくわからないが興味があると感じられたかたなど、動機は問いません。性別や国籍はまったく問いません。大阪大学の学生であれば、どなたでも応募可能です。

このプロジェクトに出演者として参加してみたいと思われた皆さん、ぜひためらわず応募をお願いいたします。おおいに期待してお待ちしております。